

北海道知内町立知内小学校

3～6年生全員が体育授業で「リスペクト宣言」を作成し、仲間や相手、自分を大切にする行動を実践。継続的な振り返りを通じて励ましや挑戦を認める言葉が増え、サッカーに限らず体育全体で互いを尊重する文化が広がるなど、児童主体のリスペクト醸成につながっている。

取り組み内容

実施場所：2025 年 8 月～2026 年 3 月

取組場所：

北海道知内町立知内小学校各教室（宣言の掲示は体育館）

取組内容：

本校では、体育の授業を通してリスペクトの心を育むことを目的に、3年生から6年生までの全児童が「リスペクト宣言」を作成しました。児童は、チームスポーツを行う際に、「どのような言葉や行動が仲間や相手、審判、自分自身を大切にするにつながるのか」を考え、一人一人が自分なりの宣言を言葉にしました。作成した宣言は体育の授業で継続的に振り返りながら活用し、サッカーの単元だけでなく、ボール運動やゲームなど様々な学習場面で生かしました。その結果、仲間を励ます声や挑戦を認める言葉が増え、互いを尊重しながら活動する姿が多く見られるようになりました。また、チームの中には、自分たちのリスペクト宣言を合言葉のように声に出しながら活動する姿も見られ、児童自身がよりよいチームづくりを意識するようになっていきます。

リスペクトであると思う理由：

本校の取組は、「リスペクト」を単なる合言葉や知識として学ぶのではなく、児童一人一人が自分の言葉で宣言し、日々の活動の中で実践することを大切にしています。自分で考えた宣言だからこそ、活動の中で自然と意識され、仲間を励ます言葉や挑戦を認める行動へとつながりました。さらに、その意識はサッカーだけでなく、体育全体へと広がり、互いを尊重し合う学びの文化づくりにもつながっています。リスペクトは、勝敗や競技の枠を超え、人を大切にする態度として育まれるものです。本校では、児童が自ら考え、自ら実践する取組を通して、リスペクトを日常の行動へと結び付けています。

